

特集

地域をつくる学び合い

ホリデー・スクールわかば

地域で支援

立川市では、平成14年度から実施された完全学校週5日制の下、地域の力を活用し、子ども自らが生きる力を育むことを目的として「ホリデー・スクールわかば」を開始しました。今年度のモデル地区である若葉町地区では、スポーツ教室、実験教室、季節行事など、休日における「子どもの居場所」づくりが地域団体の人たちの手によって展開されています。

今回は、モデル地区内にある、けやき台小学校と若葉小学校を訪れました。

共感

けやき台小学校では、卓球、昔遊び、工作など、毎回10種類くらいのメニューを用意しています。松野校長先生に、ホリデー・スクールの意義を聞くと、「ホリデー・スクールを通して、子どもたちの夢と希望が育まれるように、子どもが主体的に考え、自分たちで活動を創り出せるよう見守って行きたい。」と力強く語ってくれました。そして、学校と地域について聞くと、「お互いに共感を持てるようにし、関係をフラットにしたい。ホリデー・スクールがその橋渡しになれば。」と言います。「さまざまな団体や大人たちが子どもたちの活動を支えるために繋がっている地域だからこそ実現したんですよ。」と笑顔で語る校長先生の言葉に成功の秘訣が隠されているようです。



輪ゴムでマジック



季節行事 一芋堀り

いつでも、どこでも、どこへでも

若葉小学校を会場としたホリデー・スクールわかばは、「いつでも、だれでも、どこへでも」がキャッチフレーズです。子どもが遊びを創り出す「遊び広場」をはじめ、「毛糸で遊ぼう」「絵本をつくろう」など、毎回6、7種類のメニューが用意され、好きなところに、自由に参加できます。メニューを準備するのは、地域の方々。「毎週の活動はたいへん」だからこそ、「自分が楽しめるように活動している」と子どもたちに負けない笑顔を見せられます。反省会では、ホリデー・スクールの今後の展開について、活発に意見が出され、地域の皆さんが積極的に関わろうとしていることが伺えます。子どもを介して、大人が繋がる場ともなっているようです。

仲間

ホリデー・スクール推進委員長兼運営協議会長の山田拓男さんは、「役を引き受けたことについて、多少のプレッシャーを感じますが、子どもと接することは、好きですし、若さの源と思っています。そして、新しい事業を立ち上げることは難しいものですが、一緒に頑張る仲間がいて助かりました。今後は、指導者が子どもに教える状態から、子ども自身が子どもを引っ張っていけるような活動に発展して欲しい。」と語ってくれました。